



まちの概要

岡山県津山市は、中国山地の懐に広がる山紫水明の城下町である。古くは713（和銅6）年に美作国が生まれ、政治の中心となる国府が津山に置かれた。また、山陰と山陽を結ぶ因幡街道や、出雲（島根県）と播磨（兵庫県）を結ぶ出雲街道などがあり、昔から交通の要衝でもあった。先人によって築き上げられた歴史と文化を継承し、安心して暮らせる社会の実現を目指したまちづくりを進めている。

桜の概要

津山城（鶴山公園）は、津山市内の中心に位置し、津山市のシンボルとして市民をはじめ観光客の方にも親しまれている国の指定史跡である。荘厳な風姿の津山城の1,000本余りの桜が満開になる「さくらまつり」は毎年10万人近い人で賑わう。ソメイヨシノ（染井吉野）を中心に同系列のジンダイアケボノ（神代曙）やカンザン（関山）などが植樹されている。また、高さ45mの石垣、その本丸から見下ろす桜色の雲海のような景色はまさに壮観である。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

津山城（鶴山公園）には、様々な樹木が植栽されている。その中でも特に桜が津山市の春の観光の顔になっている。そのため平成10年3月「史跡津山城跡保存整備計画」を策定し平成29年度末までの長期的な視野で整備を行っている最中である。多くのソメイヨシノが寿命を迎えつつある現在、開花時期が延びるように努めている。

また、津山市では、市制施行70周年記念事業の一環として津山市の花・木「さくら」が定められた。

◇津山市 web サイト：<http://www.city.tsuyama.lg.jp/>



まちの概要

益田市は、島根県の最西端にあって、北は日本海に望み、南は中国山地に至る、山陰と山陽を結ぶ要衝地です。平成 16 年に 1 市 2 町が合併し、人口約 5 万 1,000 人となった。

面積は 733.24km²と島根県の総面積の約 1 割を占め、その大半を林野が占めている。

桜の概要

金谷城山桜（かねだにじょうざんざくら）

種 類：エドヒガン

樹 齢：570 年

樹 高：15m

幹周り：6.67m

由 来：入船山城を築いた澄川氏が金谷の地に移り住んだ際に、城の出丸部分にあたる所に植えたと伝えられている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

益田市美都町では「柚子と桜のまち」として、美都町桜の会を中心として「1 万本の桜の植樹」の提唱を挙げ、毎年桜の植樹を実施している。（平成 25 年度現在 13,157 本の植樹を実施）

特に金谷城山桜は高齢化しており、1 本植えされている桜木の病気などについて対策を地元自治会及び桜の会と一緒に取り組む。

◇益田市 web サイト：<http://www.city.masuda.lg.jp/>



まちの概要

雲南市は、島根県の東部に位置し、松江市、出雲市に隣接、南部は広島県に接し、先人たちが守り育ててきた多彩で魅力ある資源を保有している。

豊かな森林や斐伊川の流れにみられる穏やかな自然、神話に象徴される銅鐸やたたら製鉄の歴史遺産、桜や蛭にみられる生命の多彩な輝きなど「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をキーワードに、地域資源を最大限活用したまちづくりを推進している。

桜の概要

平成2年に(財)日本さくらの会より、「日本のさくら名所100選」に選定された「斐伊川堤防桜並木」は、ヤマタノオロチ退治の舞台となった斐伊川の清流に沿って約2kmにわたる桜トンネルで、中国地方随一の名所としてその名を馳せている。

この斐伊川堤防の桜は、明治の終わりごろから植えられ始め、市のシンボルとなっており、シーズンには多くの観光客で賑わう。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

雲南市は市民の桜に対する関心が高く、住民参加組織である「雲南市さくらの会」が中心となって市内の名所づくりや桜の保育管理などを行っている。近年は、全国でも珍しい「笹部桜」の育成とその名所づくりに取り組んでいる。今後は、苗木を希望するさくらの会会員への笹部桜の苗木の無償配布も行っていく予定である。

◇雲南市 web サイト：<http://www.unnan-kankou.jp/>



福岡県 八女市

まちの概要

八女市は福岡県の南部に位置する農林業を主な産業としているまちである。福岡市から車で1時間の距離にありながら、市街地と豊かな自然が調和する暮らしやすいまちである。中心部にはかつての繁栄をしのばせる白壁の町並みが残し、天然素材等を生かした伝統工芸が今も盛んである。豊かな大地にはお茶をはじめ、多くの農産物が実る。また、著名な画家や作家を輩出しているように文化活動も盛んで岩戸山古墳に代表される史跡も多く残る。

桜の概要

奇岩巨岩群と湖の景観が美しい日向神ダム湖畔には、昭和35年ダムの完成とともに周囲6kmにわたり植栽されたソメイヨシノの千本桜が春の訪れとともに一斉に開花し、春らしい見事な景色を湖全体でゆったりと楽しめる。また、清流星野川と石橋とのコラボが美しい600本のソメイヨシノが咲き誇る北川内公園など市内各所にある桜の名所には春の訪れとともに多くの花見客で賑わう。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

桜を重要な地域資源のひとつとして捉えており、桜の保全に努めるとともに桜を活かした周辺整備を推進している。特に、日向神ダム湖畔に咲く千本桜のシーズンに合わせ湖上遊覧船を運航させるなど地域の新たな魅力づくりに取り組む予定である。

◇八女市 web サイト：<http://www.city.yame.fukuoka.jp/>



まちの概要

長崎県央に位置し、西に大村湾、東に多良岳県立自然公園を臨む自然豊かな市。日本初のキリシタン大名大村純忠などのキリシタン関連遺産、坂本龍馬らとともに活躍した先人たちの偉業を活用し、歴史観光に取り組んでいる。また、JRをはじめ、世界初の海上空港「長崎空港」、高速道 IC を有し、新幹線西九州ルートの新駅も決定している。

桜の概要

「日本さくら名所 100 選」に選ばれた玖島城跡の大村公園をはじめ、市内全域にオオムラザクラ、クシマザクラ、ソメイヨシノなど約 1 万 3,000 本の桜が植えられている。なかでも、大村市の市花であるオオムラザクラは、八重桜の 2 段咲きで花卉の総数が 60 ～ 200 枚もある優雅な花で、里桜中の名花と言われており、大村神社のオオムラザクラは国の天然記念物に指定されている。3 月下旬からの約 1 カ月間市内は桜一色に染まり、文字どおり「さくらの街おおむら」として多くの花見客で賑わう。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

大村公園は、わが国近代公園の先駆者として知られる大村藩出身の長岡安平が玖島城址に桜を植えたことに始まり、桜の名所として有名になった。「日本さくら名所 100 選」に選ばれたのを契機に、「さくらの街おおむら」を広くアピールするための植栽事業を展開し、平成 13 年度に「さくらの街おおむら推進委員会」を設置して、より一層のさくらの街の推進に向けての取り組みを行っている。

今後、「サクラの里づくり」事業として、平成 34 年度までの計画で、市民と行政が一体となったさくらのまちづくりを推進していきたい。

◇大村市 web サイト：<http://www.city.omura.nagasaki.jp/>

◇大村観光ナビ web サイト：<http://www.omuranavi.jp/>



まちの概要

熊本県の東南部、宮崎県との県境に位置し、総面積 190.96 k㎡のうち、約 92%が森林に囲まれた、人口約 2,450 人の村。

日本三急流の一つ「球磨川」の源が、ここ水上村にある。

桜の概要

昭和 35 年に村の中央部に完成した多目的ダム「市房ダム」の周囲約 14km に、修景事業として桜が植栽された。

その後、昭和 59 年に始まった「くまもと日本一づくり運動」のなかで、当時の県知事であった細川護熙氏の提唱により、「日本一の桜の里づくり」が始まった。現在、住人総参加の桜の下草刈り、空き缶・ゴミ拾い等、一人ひとりの手で育てられている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

昭和 35 年に完成した市房ダム湖。完成後、村民ボランティアによりダム湖周囲に植栽された桜とダム湖の中心部に整備された噴水が吹き上げる約 80m の水しぶきとのコントラストは観光客も圧巻。今後も市房ダムと桜を水上村のシンボルとして外部発信し、更なる誘客の増加につながるよう桜の維持管理に努めたい。

◇水上村 web サイト：<http://www.vill.mizukami.lg.jp/>



まちの概要

日南市は、太平洋に面し日南海岸国定公園を擁し、リアス式海岸により鵜戸神宮などの風光明媚なところが多々ある。

山間部は、餌肥杉、さくらの木を配し一部の照葉樹林地域では、森林セラピー基地として市内外より多くの方が訪れている。

桜の概要

昭和56年から桜の植樹活動を実施している。植栽は自治公民館や各民間団体、誘致企業等の協力のもと、公共施設周辺や沿道など約1万8,000本程度の植栽を完了している。

中でも花立公園には1万本の桜が植栽されており、多くの観光客が訪れる。12月には桜愛好家が開発した「日南寒桜1号」が早咲きで開花する。他には竹公園（約3,000本）もあり、春の観光名所となっている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

さくらの植樹・管理については、今後も継続していき一層の拡充を図りながら公園内の道路・遊歩道及び駐車場の整備に努め、来園客には春の休日を満喫していただきたい。

◇日南市 web サイト：<http://www.city.nichinan.lg.jp/>



まちの概要

五泉市は、平成 18 年 1 月 1 日、旧五泉市と旧村松町が合併し誕生した市で、新潟県のほぼ中央、県都新潟市の南東に位置する。

良質で豊富な水資源に恵まれ、古くから絹織物の産地として知られ、戦後めざましい発展をみたニット産業は、全国的な産地となっている。

また、緑豊かな山々や清らかな川の流れ、肥沃な大地などの自然の恵みの中で、全国的にも有数なばたん、チューリップ、栗や銀杏（ぎんなん）、里芋など、数多くの特産を生み出している。

桜の概要

明治 39 年 10 月に日露戦役記念として造られた五泉市村松公園は、春から秋にかけ様々な花が楽しめる自然豊かな公園として親しまれ、「新潟景勝 100 選」で第 3 位に選ばれている。中でも、約 3,000 本の桜が咲き乱れる春の景色は圧巻である。

桜の 9 割はソメイヨシノだが、ほかにもピンクの濃いヨウコウザクラ、シダレザクラも楽しむことができる。また、絶滅したと長らく考えられていた、希少品種の穂咲彼岸八重桜も毎年可憐な花を咲かせるこの公園は、「日本さくら名所 100 選」にも選ばれている。

市内には、菅名岳西側の蟹沢山の中腹から山麓にかけて繁茂する小山田彼岸桜樹林は、国指定の天然記念物であり、優雅にたたずむ姿を一目見ようと訪れる観光客も多い。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

毎年 4 月に「桜まつり」を実施し、見ごろ期間中には夜間ライトアップを行い、昼間と違った趣を楽しむことができる。さらに、多くの観桜客の利便性を図るため、園内の舗装整備を計画的に実施している。

また、この貴重な観光資源である桜の育成環境改善資料として、土壌調査や生育環境調査の実施、希少品種「穂咲彼岸八重桜」の樹勢診断や後継樹の培養を実施した。

◇五泉市 web サイト：<http://www.city.gosen.lg.jp/>